

図書館フレンズべっぷ 通信

第6号

今年4月に就任した館長に会ってきました 図書館へ行こう！ 館長って、どんな人？

2022年、開館100周年を迎える別府市立図書館。
今年4月に館長に就任された檜垣伸晶館長に会い、
お話を伺いました。

館長インタビュー

——— どんな趣味をお持ちですか？

趣味は？

**趣味は山登りに
干し柿づくり…そして
織田作之助研究 などなど**

趣味【山登り】

山登りは、くじゅう連山をホームグラウンドとして、40代の頃は毎月通っていました。「散歩気分で九重連山」というHPも開設するほど夢中になっていました。夜行列車で北アルプスへの山行や、年末の休暇を利用してエベレスト(ネパール)を見るためにヒマラヤトレッキングに行ったこともあります。もちろん、由布岳や鶴見岳、扇山(大平山)には今でも登っています。

趣味【文芸誌・九州文学同人】

児童文学『少年と青いリュック』を出版したことがありますが、それ以降は純文学系の小説を書いています。日田文学同人を経て今は九州文学に籍を置いています。

趣味【オダサクの研究】

『夫婦善哉』で有名な無頼派作家、織田作之助(通称:オダサク)の研究をしています。5年間、秋の図書館まつりで講座を開講しました。それをまとめた評論を今年の3月、「九州文学」と「別府史談」に『別府を愛



ひがき
のぶあき
檜垣 伸晶
館長さん

檜垣 伸晶(ひがき のぶあき)

Profile

1957年生まれ／佐伯市出身

1981年 別府市役所入り

2018年3月 定年退職

2021年4月～ 別府市立図書館、常勤の図書館長

した織田作之助』と題して発表しました。

趣味【図書館・美術館めぐり】

昨年の1月には5日間かけて青森の五所川原と岩手の花巻を中心に東北地方の図書館・文学館をめぐる一人旅をしました。太宰治と宮沢賢治を訪ねる旅です。そして、紫波町図書館、青森市民図書館、仙台メディアテーク・図書館、秋田国際教養大学の中嶋記念図書館(24時間、365日眠らない図書館)などに行きました。

趣味【干し柿づくり】

干し柿づくりを始めて10年くらいになります。柿の皮を剥く時は一心不乱になれます。親類のおばちゃんから「そんなに好きなら渋柿から栽培したら」と苗木をいただき、今年で8年目、わが家の庭によく結実しました。

—— 社会教育課長時代の時と今では、 どんな事が違って見えますか？



15年前に生涯学習課長（現・社会教育課）を3年間務めました。多くの社会教育施設がそれぞれ課題を抱えており、管理する立場の視点でしか見えていませんでした。当時、旧南小学校跡地整備事業で新図書館がメイン施設となる計画が進められていましたが、結果として実現できなかった苦い経験があります。

【これまでの図書館の印象】

別府市立図書館に限らず、県立図書館や近隣の図書館はあくまで利用する側でした。私の利用法は、館にゆっくり滞在して、書架をめくりながら本を探すことを一番の楽しみとしてきました。

あくまで図書館という空間の中で、想像の世界を旅する感じです。小説を書くという点では創造空間を泳ぐ場合もあります。私の図書館とはこんな感じでした。

【館長になってからの印象】

縁あって、この4月から常勤で館長を務めています。利用する側からサービスする側へと立場が逆転しました。全く視点が変わります。内部に入ってみると図書館サービスの大変さがはっきりと見えてきます。サービスに多くの課題を抱えていることを痛感しています。

一方で、南部という地域に愛され、守られていると実感しています。また多くのボランティアの方に支えられて図書サービスが展開されていることを知りました。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

【いまの図書館の課題】

施設の狭さから図書サービスを提供するための空間の確保が出来ていない、駐車場の数の不足、図書スタッフの人員不足等、サービスの基本的な基盤が整っていないということです。

現施設では利用者の方々に不便をおかけしている部分も多く申し訳なく感じています。そして、基盤の

図書館という空間の中で、
想像の世界を旅する楽しさ

課題は様々な図書サービスにも悪影響を起こしています。しかし、このことについては新図書館が解決してくれるものと考えています。

—— 別府の図書館に必要な役割について お聞かせください。

【別府の図書館に必要な役割】

公共の図書館が持つ基本的な役割として、教育的な役割、住民の生活を支える役割、産業を支える役割、人を成長させる役割、未来をつくるまちづくりの役割などがあります。別府市立図書館も基本的な役割は同じものです。

大切なことは、すべての市民に役に立つ別府市立図書館でなければならないということです。そのためには知の拠点にふさわしい豊富な資料の充実が求められます。それも新鮮さが必要です。

また、別府市立図書館でなければならないことへのこだわりも重要です。私たちの誰もが、生まれた別府のまち、育った別府のまち、今住んでいる別府のまちについて知りたいという欲求があります。「郷土を知りたい」という思いは、別府の歴史を学ぶ喜びや郷土を愛する心の醸成につながります。

それを支えるのがしっかりと歴史を記録した資料、古文書などの郷土資料、また公文書などの行政資料、地域資料となります。

もう一つが日本を代表する温泉都市として他に類を見ないような温泉資料の充実も別府市立図書館の大きな役割となります。

このためにもレファレンスに応えられる図書館司書の人員確保と人材育成、さらにはデジタルアーカイブの推進や電子図書館の整備は必要と考えています。

—— 新しい図書館に向けての期待や 現市立図書館の今後の抱負は？

【新しい図書館に向けての期待】

長い間、市民が待ち望んだ新図書館が4年後には実現することになります。私の中でも15年間にわた

「郷土を知りたい」という欲求に
応える豊富な資料を



る課題であり夢でもあります。

建設される場所は別府公園の文化ゾーンです。別府公園の中に図書館が建設されますが、図書館サービスを展開する私たちは「別府市立図書館の中に別府公園があるのだ」という気概を持ちたいと思っています。そのためにも、今からの新図書館へのつなぎの期間がとても大切なのです。

【現別府市立図書館の 今後に向けた抱負】

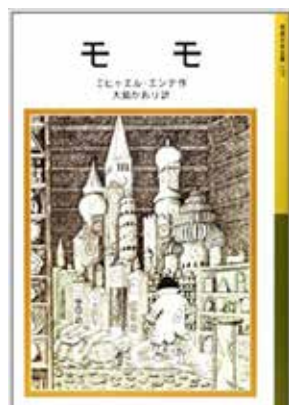
大正11年の4月に、別府町立図書館として別府北尋常高等小学校内に設置されてから、来年は開館100周年の節目を迎えます。これまでの歴史を踏まえて、これからの100年に向けてあゆみをスタートします。新しい図書館を待たずとも、今できる新しいサービスへの取り組みにスタッフ一丸となりチャレンジしていきたいと考えています。

【おすすめの一冊】

私のライフワークでもある織田作之助の名作『夫婦善哉』をあげたいところですが、ミヒヤエル・エンデの『モモ』が一番のお薦めです。

廃墟となった町はずれの小さな円形劇場に住む少女・モモが時間どろぼうの「灰色の男」たちから、盗まれた時間を取りもどし人々を救う物語。時間がテーマのエンデの不朽の名作です。私はこの作品を40歳代で初めて読みましたが、たちまちのうちに作者と作品の虜になりました。

また表紙絵や挿絵も作者の手によるものです。子どもたちと大人にも読んでもらいたい本なのです。



大人にも読んでもらいたい
エンデの不朽の名作『モモ』

新図書館への つなぎの期間がとても大切

別府市立図書館のあゆみ

別府市立図書館要覧より抜粋

場所は
現在のトキハ別府店

1922 大正11年6月1日	別府北尋常高等小学校内に附属して設置
1933 昭和8年4月	上田の湯町の公会堂地下室（現在の1階）に移転
27年4月1日	「別府市立図書館設置及び管理に関する条例」施行
36年9月10日	上田の湯町の公会堂北隣に図書館を新築（美術館併設） 郷土資料室ができる
1965 40年	移動図書館活動を開始する
47年11月1日	開館50周年記念行事を行う
1987 62年7月10日	移動図書館車を配置（ロータリークラブより寄贈） 千代町の現在地に図書館を移転、開館
1988 平成元年10月17日	「温泉コーナー」を設置する。
2年1月8日	「紙芝居コーナー」を設置する
4年3月26日	優良図書推薦委員会を設置、委員数8名、委嘱期間2年
8年10月28日	大分県立図書館所蔵検索ネットワーク「OLIB」運用開始
10年4月1日	改正後の「別府市立図書館管理規則」により、 開館時間と休館日を変更
1998 10年5月1日	「地図コーナー」を設置
16年11月24日	児童室に「ヤングアダルトコーナー」を設置 （現在は閲覧室）
2009 21年7月1日	別府市立図書館協議会設置
23年7月	貸出文庫開始
24年2月	インターネット予約開始
26年10月1日	図書館専用駐車場13台分確保
29年10月6日	「新聞画像データベース（KENBUN）」の運用開始
2019 令和元年6月29日	子ども読書活動応援ボランティアネットワークの会 「ぶっくる」発足

来年2022年は、100周年を迎えます！

●インタビューを終えて

館長のお人柄に触れ、とても親しみが持てました。現在の市立図書館は南部地区の方々に愛されてきた図書館。新しい図書館ができて分館として整備され、この地区の文化拠点になったらいいなと思いました。



2020年の数字から見る大分県内の公共図書館

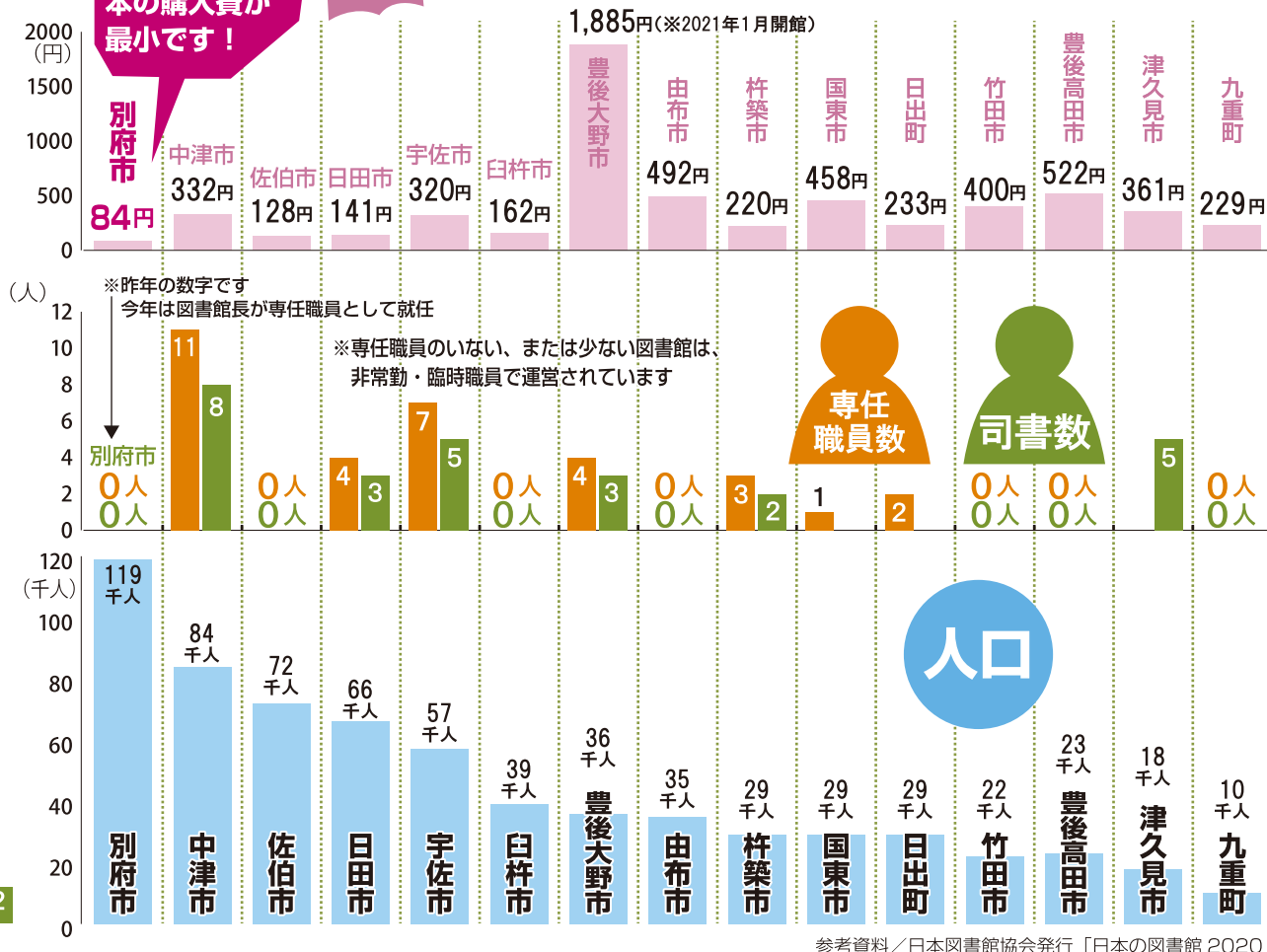
別府は？

別府の新図書館への期待が高まる数字です。資料選定には時間も費用もかかります。開館に向けての予算編成と職員配置を期待したいです。

別府市は県内で本の購入費が最小です！



一人あたりの年間資料費（本などを購入する費用）



参考資料／日本図書館協会発行「日本の図書館 2020」

リレーエッセイ

本

図書館

友人が本を出した

『カフェで綴る旅の記憶』

ただし、この本に世界遺産は出てきません』

小寺 哲／著

幻冬舎メディアコンサルティング 発行



コロナがやってくる少し前、神戸で学生時代を過ごしテニスで共に汗を流した仲間の一人が本を書いた。旅行は勿論、陶芸では窯を作る程楽しんでいては知っていたが、今度は作家？驚きながらも少し読んで納得した。

帯の中で「ガイドブックには載っていない、街の素顔に出合える一冊」と紹介しているように、妻と観光ツアーで旅行をしながら、極力自由時間を作り、いろいろな所を歩いたという二人。訪れた街での人との関わりや体験した1コマが題材のエッセイである。

第1話の「片腕の男」から「キャディの矜持」までの43話、訪れた時や場所は順不同である。中には行っていない街も登場する。都合で1人参加になったゴルフ旅行、「行くか」と聞いたら断ると思った妻が「行きます」と即答。(12話「まだ行ったことがないベトナム」より。

事象を捉える幅の広さと豊かな表現、決断の早い妻との小気味いい会話も楽しい。類似した自分の体験を思い出したり、まだ行っていない街に出会ったり、ちょっとだけ自分の旅のような気持ちにしてくれる一冊である。

加藤三智子

募集！

本や図書館に関するエッセイ募集しています。いっしょに紙面をつくりませんか。